

図書館だより

1990. 7. 5

第12巻 2号

通巻114号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

ことの葉
彩時記

恋する蛍

菱川 善夫

蛍の首すじは赤い。それを蛍の首飾りととらえたのは誰か。アイヌの人々である。私は、久保寺逸彦編著の『アイヌ叙事詩、神謡・聖伝の研究』の中にそれを発見し、思わず感嘆の声をあげた。

蛍の女神が「首飾りの黄金」を光らせながら川を下り、海に出てカジキマグロと結婚するという神謡である。鱈、鱈、イトウをつぎつぎ訪ねるけれど、いずれも醜男で駄目。最後に訪ねたカジキマグロの美男子ぶりが気に入って、むつまじく夫婦ぐらしをした、という内容である。蛍の女神もなかなかの面喰いだが、それだけ美しく、プライドも高いというわけだろう。

私の頸飾りの黄金は／海原の上に／明るく輝き／ピカピカと明滅しながら／飛んで行ったら／一軒の家が建っていた／訪いの咳払いをすると／一人の男が／出て来た／私が見ると／この人こそ初めて／私が愛することが出来そうな／美男の男が／出て来て／次のようにいった／「神なる淑女よ！／早く中へお入りなさい」……

このあとは書く必要があるまい。それにしても海原を飛ぶ蛍、というイメージはスケールが大きい。蛍の季節は、北海道の沖合にカジキマグロのやってくる季節でもあった。

日本文学に登場する蛍はどうか。まず恋の技巧の場面に登場する。夜、美しい女の顔を見たいとき、その面前に蛍を放ち、その光によって堪能するというわけである。『源氏物語』の「蛍の巻」に

それが出てくる。源氏が養女玉鬘たまかづらのいる几帳の中に、ぱっと蛍を放つ。その光の中に浮かぶ女の顔を垣間見たがために、蛍兵部卿ひょうぶきょうの宮は、死ぬほど思いつめてしまうのだ。

蛍は光るだけで鳴かない。そこから、蛍が黙って光を明滅させるのは、蛍も苦しい恋の思いを耐えしのんでいるからだ、という発想がうまれてくる。

声はせで身をものみ焦がす蛍こそいふより
まさる思ひなるらめ 玉鬘

〈声に出さぬ蛍こそ、あなたよりも深い思いに燃えているでしょう〉(円地文子訳)——「蛍の巻」に出てくる玉鬘の返歌である。

アイヌ神謡の開放的明るさとは違う、恋の苦悩がここにはある。

(ひしかわ よしお 教養部教授)



宮田雅之切り絵画集

源氏物語 蛍 より



ハロー・ジャパン ②

3年間の海軍生活

Richard D. Kizziar

When I finished high school, I wanted a vacation from forced study. I knew I wanted to go to university sometime, but not just then. So, I joined the navy.

I was in the U. S. Navy for three years. I could have been in danger because the war in Vietnam heated up just after I joined. However, the navy did not send me to Asia — it sent me instead to Europe. Only later did I realize that I did not have to kill anybody ; I still thank heaven for that.

But then, I was happy to be a tourist. I wanted to see everything I could. My ship went all around the Mediterranean Sea. When it landed in Valencia, Spain, I took a ship's tour to Madrid. From the Riviera, I went to Paris ; from Naples, Italy to Rome. In those days, Beirut, Lebanon was "the Paris of the Middle East" with fancy hotels and clean beaches. From there, I flew to Jerusalem. Before the 1967 war, Jerusalem was in Jordan.

I remember these places very well, but the most romantic spot I visited was the island of Capri, less than an hour across the bay from Naples. Somerset MAUGHAM calls it "the most beautiful island in the Mediterranean" ; for me, that is true. The island is small. You can walk around it in an hour or so. Consequently, no cars are permitted, but none are needed. I found foot-paths paved with stone going everywhere. I remember the tall, dry grass, the umbrella pines and the sea on every side. It was truly a beautiful place.

For me, joining the navy was a good decision. I travelled to places that I will never be able to go back to, and it kept me busy for three years while I grew up. But at that time, I could have very easily been killed ; I was very lucky.

(R. D. キザー 教養部講師)

♥神さま感謝してます♥

高校を卒業したら、何かちょっと別のことをしてみたいなあ。だって、ずーっと勉強してきたんだ。もちろん大学へも行きたいけど、今すぐじゃない。そこで海軍に入隊することにした。おまけに運も良かったんだ。

だってアジアへ送られるかわりにヨーロッパに送られたんだもの。アジア：つまりベトナム戦争。キザー先生、今でも神さまに感謝してる。図書館員も同じ気持。

もし戦場の露と消えていたら、このエッセイだって書いてもらえなかったもん。

新着図書 — 経済

内田義彦著作集 3, 10 内田義彦著/現代経済学入門 横井弘美著/中国経済統計・経済法解説 小島麗逸編/マクロ経済学 上, 下 R. ドーンブッシュ著/世界農業問題の構造化 河西勝著/解説経済白書 土志田征一編/概説イギリス経済史 米川伸一編/経済地理学 川島哲郎編/日本の経済協力 鈴木長年編/日本の人口・日本の社会 人口問題審議会編/現代経営学 1, 3 中村常次郎編/ビジネスリスク・マネジメント P. G. Moore 著/管理会計の基礎理論 辻厚生編著/昭和財政史 10, 11 大蔵省編/補助金総覧 財政調査会編/社会政策審議会資料集 1~6 西成田豊編/米国における将来の住宅対策 総合研究開発機構/国際貿易の理論 柿元純男著/会計学総論 青木茂男著/会計情報論の基礎 船本修三著/会計学の基礎 井下武厚編著/会計学概論 大岩弘和著/会計学概説 高木泰典著/21世紀の航空ビジョン 総合研究開発機構/観光の実態と志向 日本観光協会編

ミュンヘンの図書館

小林 資郎

私は1988年4月から昨年の9月までの1年半にわたり、西ドイツのミュンヘン大学で研修生活を過ごした。海外旅行すらしたことがなかったので、はたして長期間の外国生活に耐えうるか大いに不安であった。今ふりかえてみると、楽しいこともあったが、苦しい経験の方が多かったような気がする。いろいろ書きたいことが多いが、今日は図書館について感じたことを書いてみよう。

ミュンヘンの中心部には、バイエルン州立図書館とミュンヘン大学図書館があり、これらは、筋向かいに位置している。両者ともに閉架式であり、利用者は、文献カードで目的の書物を検索し、所定の用紙にその登録番号などの必要事項を記載し、備付けのボックスに入れておけば、2～3日後に窓口でその書物を受け取ることができるというシステムになっている。すぐにその場で読みたいと思っても、それは不可能である。また、古い本は、コピーのために持ち出したいと思っても、それが禁止されていて、閲覧室で読むか書き取らなければならない。これらの点で私は、本学の図書館を利用する場合に比して大きな不便さを感じたものである。しかし考えようによっては、それほど書物というものを大切に扱っているのかもしれない。

ミュンヘン大学の法学部の中には、本学の判例演習室やゼミナール準備室のような教員・学生が自由に利用できる開架式の閲覧室があった。その規模は本学の比ではない。その部屋の管理には、

学生が当番制であっていた。わがゼミナール準備室もそのようである。しかし決定的に異なるのは、学生達の勉学にたいする熱意である。私はこの閲覧室の中に専用の机を用意していただいたが、他の座席はいつもほぼ満席で、私の机すら学生に占拠されていることがよくあった。施設が先行するのではなく、利用者の熱意がこのような施設の充実につながるのかもしれない。

西ドイツでは、教育は国家の義務であると考えていて大学の学費は無料である。学問をしたい学生は、アビトゥーア（大学入学資格＝高校卒業試験）に合格すれば、自分の学びたい大学に入学することができる。しかし、いわゆる「親のすねをかじる」ということはなく、生活費は自分でまかなうのが普通である。奨学金制度がしっかりしているし、それで不足する場合は、休み中にアルバイトをするようである。それ

だけに、学期中の学生の勉学に対する意欲が大きいのであろう。諸君らも、今一度、大学生活というものを考え直してみてもどうだろうか。

（こばやし しろく）

法学部教授



法律 — 新着図書

アジア文化圏の時代 L. ヴァンデルメ著／日本國會百年史 下 国会百年史刊行会編／講座国際政治 3 有賀重昭編／新法律学辞典 竹内昭夫編／分冊六法全書 1～6 法務大臣官房司法法制調査部職員監修／法政策学 平井宜雄著／現代憲法大系 3 小林直樹監修／佐藤功先生古稀記念論文集 芦部信喜編／注釈民法 21 新版 谷口知平編／補講民法学 半田正夫著／ハンドブック 民法 3／問答式不動産有効利用の法律と税務 不動産利用実務研究会編／問答式境界・私道等の法律実務 境界・私道等実務研究会編／損害賠償法の理論 平井宣夫著／家族法実務研究 野田愛子著／秋霜烈日 伊藤栄樹著／刑法判例大系 各論 内田文昭著／現代民事裁判の課題 8 新日本法規出版／陪審制度 大阪弁護士会監修／刑事訴訟法 福井厚著／刑事訴訟法 田口守一著／注解特許法 上、下 中山信弘編著／自然保護の法と戦略 山村恒年著



東洋文庫のすすめ (二)

小野 誠 二

『ミリンダ王の問い——インドとギリシアの対決——』(中村元, 早島鏡正訳, 全三冊)

中村元氏はこの書の「はしがき」でつぎのように述べている。「東洋思想の源流であるインドの仏教と西洋思想の源泉であるギリシア人の世界観とが、パキスタンの奥、インダス河の上流地方でぶつかり、たぎり、奔騰した。すなわち、パキスタン及びインドの地に侵入したギリシア人の最も偉大な帝王メナンドロス(ミリンダ王)が、仏教僧ナーガセーナ長老と仏教教理について対談し、ついに仏教に帰するに至ったといわれている。その対談の記録が多くの潤色・加筆・増広をへて、今日、パーリ語で伝えられている。それが『ミリンダ王の問い』である。

この対談はB.C. 2の後半に行われ、B.C. 1乃至A.D. 1に今の形で整理されたい。この頃に大乘仏教(簡単に言えば、個人的修業といったものよりも広範な教えによる精神的な訓化、悟りの面に重きをおくようになった仏教。大乘とは大きな乗物という意味で、救済される道の多岐なことを示している。現在の仏教の大勢はこれである)が興起するが、『ミリンダ王の問い』での教えはそれと平行していた伝統的保守的な仏教である。この書は仏教の正統説を乱していると非難する人もあり、また、セイロン(スリランカ)仏教では、ブッダに託して述べられていないので、経・律・論(それぞれ、ブッダの説法、仏徒の戒律、經典

の注釈の集成)の三蔵以外の典籍とされている。

ところで、邦訳の副題は「インドとギリシアの対決」となっているが、あくまで主題どおり「ミリンダ王の(ナーガセーナへの)問い」であり、教えを乞う形式をとっている。しかし、それでもなお、ギリシア人の大王らしく、他の仏典ではみられないギリシア的な対話、ときには反論すら試みられている。あとで触れるミリンダ王が「両刀論法」だと言う問いを反論だとすれば、この書はミリンダ王の反論とナーガセーナのそれへの更なる反論が最もページを割いていることにはなる。そして、ミリンダ王の広範に亘る問いはすべてといってよいほど難問であり、それだけ仏教の知識のあった証拠であるが、それに答えるナーガセーナの深い博識ぶりはまさに驚異に値いする。そこで、この書は仏教のよき入門書の役を果たしているだけでなく、その内容を消化吸収するならば、少くとも原始仏教、あるいは仏教の出発点の基本はかなり身についたことになると思える。

言うまでもなく、仏教は、「生」と合わせて、そのために苦となる「老」「病」「死」の四苦を断つための「悟り」を得る教えであり、本書はそのための「方法」、あるいは「修業」の仕方についての膨大な実践的知識が盛られていて、ミリンダ王の執拗な問いにナーガセーナによって与えられる解答を通じて仏教の何であるかがよく理解されるのであるが、わたしがこの書でとくに感じたことは

真夏の夜は……

「光る源氏の物語 上・下」 大野晋・丸谷才一著 中央公論社

「国語学者と小説家が男同士で率直に語り合った源氏物語」というのがキャッチフレーズ。

ん？ どういうこと？ と思うわね。

『源氏』における閨房のこと(男色を含む)についてまことに熱心に討議したとあとがきにあり。

「男女の仲のことばかり扱いづめに扱ったあの物語についてかういふ具合に論じた人がゐなかつたのはじつに不思議な話だった」んですって。

さあ、どうする！ 読んでみる？

では、『桐壺』にはじまって『夢浮橋』まで小説家の目で絶賛している所、ヘッタクソで読まなくてもいい巻、中だるみになって上手いかず、紫式部は十二指腸潰瘍くらいやってる所とかが具体的に出てきます。

私の好きな所は『夕顔』の巻。この夕顔の花のような女主人公が印象的。六条御息所の生霊におどかされて亡くなってしまうのもドラマチック。それと『朧月夜』が出てくるところは全部すきよ。

つぎの二つである。

1. この書の中心的課題でもありと思われるのだが、ギリシア思想にはない、仏教の「無我」（無実体）説と、同じ仏教で言われ、ギリシア思想にも見られる、同一靈魂が世々の生死を繰返す（「我」とか「実体」を認める）「輪廻」説との不整合性をいかに解決すべきか、ということである。

結局は、ナーガセーナは、たとえば灯火を例にして説明する場合、燃え続ける灯火は同じものが燃えているそれなのではないけれども灯火たることを持続するといった解決を示している。これは同一の原物質が絶えず己れ自身でありながらまた同時に変化して止まぬ他のものでもあるという、ギリシアの自然観とは異なり、「灯火」は異なった基体、実体の「名称」にすぎない、実は「空」なるものであるということ、仏教の「一切空」の思想なのどうか、その方の研究をしていないわたしにはよくわからないけれども、ともかくも仏教的な解答の一つがナーガセーナによって与えられたことは否定できない。

2. つぎに、この対談の論理が、イ、「因明^{いんめい}」と呼ばれるものと、ロ、「両刀論法」でなされているということである。ただし、どちらも正確な形式はとっていない。順にその例を要約的に整理して示す。

イ、因明の例（この論理、というより、インド思想の論理に特徴的なのは、「古因明」にせよ「新因明」にせよ、「喩」=「譬え」が必ず出てくることである。それだけ重要なものとみなされているのである。因みに、本書の第三篇〈約120頁〉は「譬えばなしにかんする問い」である。）

「信仰は浄めることを特質とする。

信仰が生じつつあるときは明澄、清浄、無濁

となるからである。

たとえば、軍隊が河を渡ると汚濁されるが、水を浄める「摩尼珠」（転輪靈王が持っている七つの宝の一つで、水に入れると思うままの色に変ずることも可能な珠）があれば、水が飲めるように明澄、清浄、無濁となるように。」

ロ、両刀論法（これに対するナーガセーナの反論はいわゆる（ギリシア的）伝統的論理学で言う「角^{つの}によってとらえる方法」=両命題の必ずしもそれだけが真でないことを言って反論する方法、に当たる）

ミリング王の問い

「ブッダは菩提樹の下ですべてのことを成就されたのに、他方、その直後三カ月、独り籠って瞑想に入られた。すべてを成就されたなら瞑想に入られる必要はないし、瞑想に入られたらまだすべてを成就なされていないのである。」

ナーガセーナの反論

「瞑想に入られたのは全功德を回想されたのであって、すべてを成就して全知者にならんがためではない。すべてを成就する前の瞑想の意味とは異なるのである。」

全三巻約千頁に及ぶこの書は注の精緻さも考慮すればすぐれた学術書の重味をも持っている。このような仕事をなされた方々にはただただ畏敬と尊敬の念を覚えるのみである。（第一巻だけを読まれても意味はある。ついでに『ブッダのことば』『ブッダ最後の旅』『仏弟子の告白』『悪魔との対話』（いずれも岩波文庫〈中村元訳〉）をも手にとってみられんことを。）

（おの せいじ 教養部教授）



源氏物語は教養ある人が読めばそれなりに面白く、中くらいの人でもそれなりに面白く、無教養でもそれなりに面白い、ゆとりと幅をもった大文学なんですって。だから私でも大丈夫なの。貴方はもちろん面白く読めると思うわ。不安な人は『マンガで読む源氏物語 上下』もあります。絵はあんまり色っぽくありませんけれど… 本格的に読もうという人は、谷崎源氏、円地源氏、田辺源氏を所蔵しています。頑張っ

現在と意味の違う言葉

情=つとめて何かをする格好・目に見える形
格好をつけるってことね。なす形・見えた目
たとえば紫の上と明石の上は『情』を交す。
第一夫人と第二夫人の関係だから、本当は嫌悪・嫉妬の関係になる。そこでお互いに『なさけをかはす』
きよら=第一級の美
きよげ=第二級の美
浮舟は薫を『きよげ』と言い匂宮を『きよら』と言っている。これでもう勝負あった！ とわかるんだそうです。

気楽に読もう

番外編

<ラグビーは猫のスポーツです！>

「リヴァプール・キャッツの冒険」

山際淳司著 集英社 1989

「ある日、一匹のネコが楕円形のボールを持って走りはじめた。……走りはじめたネコのまわりには、たくさんのネコが集まってきた。フィフティーンと、かれらは呼ばれるようになった。」

このような出だしで始まるこの物語、一般の人々には「うん、ラグビーに青春を賭けた“ネコ”達のだ根性スポーツ小説ネ」と映るだろう。しかし、その道のツウは、“スポーツライター”山際淳司の作品ということもあり「むむむ、ヤマギワが、わざわざネコにラグビーをやらせるのだから、その裏には何か隠されているのに違いない。うーむ奥が深そうだ。」と期待してしまう。それだけカッコイイ“プロローグ”である。

実際は旅をするネコのラグビーチーム“リヴァプールキャッツ”が、もう一つのリヴァプールキャッツという“最強のラグビーチーム”を探し求めることになる話である。しかし、ファンタジーであるから、それなりの“隠し味”もある。また、スポーツ小説としても（結構ラグビーの知識が要求されるが）それなりに楽しむことができるのだ。

読んでいて楽しいのは、2～3ページおきにふ

んだんに出てくるネコ達のイラストである。ラグビージャージに身を包んだ彼等の雄姿は、個性豊かである。事実、作者へのインタビューによると最初にリヴァプールキャッツのキャラクターがあつて、その絵が元になっているとのこと。なるほどと思わせる。

ここで、はたと思いついたのが、ネコの習性である。考えてみるとネコにボールなどを与えてやると大層嬉しそうにじゃれている。実は「球が好きだっ!」ということに関してはネコの右にでるものは、いないのではないだろうか。“ネコにマタタビ、ネコにラグビーボール”。そう思うとネコがラグビーを始めたとしても不思議ではない。加えてこの物語の裏ストーリーである“時間”をめぐる言動からすると、ネコがじっとして遠くを見つめているような時は、もしかすると哲学的瞑想にふけている時なのかもしれない。そう思ってしまうのである。

教訓「ネコがじっとして遠くを見つめている時は、そっとしておいてあげましょう。」

(図)ヒデヨシ

空飛ぶネコ 赤マントの冒険



気楽に読もう

『緑幻想』グリーンレクイエム II
新井素子著 講談社 1990

主人公は、美しい緑色の髪を持った少女、明日香。悲しい最後を遂げた彼女の遺された想いと、それを取巻く人々、そして、植物達の想いによってストーリーは展開されます。人間は、自然環境を破壊し、植物や他の生物に対して憎まれても仕方無いことを数多くしてきました。もしかしたら、実際に憎まれているのかもしれませんが。でも、この物語に登場してくる植物達は何度も、何度も繰返すのです。「私達は、誰も恨んではいない。動物も、人間も自分以外の全ての者を愛している。愛している……」と。

前作のグリーンレクイエムも一緒にどうぞ！

(A)



日本ことわざ物語 1~3
玉川大学出版部 1989

みなさんは「ことわざ」をいくつぐらい知っていますか。

「犬も歩けば棒にあたる」「花よりだんご」など、カルタ取りなどで聞いたことがあるでしょう。ほかにもたくさんありますが、短いことばで調子よく、誰でも覚えやすいようになっているのが良いところだと思うのです。ことわざを考えた昔の人(日本人)は、とても頭が良かったのでしょうか。

この本は、絵がとてもかわいいのであきません。そして、たくさんのことわざを物語りにしているので、楽しく、おもしろく読んでもらいたいことわざの本当の意味や、楽しさがわかると思います。

ぜひ、この本を読んで、楽しんで下さい。

(M)

巨 鯨—Whales & Dolphins—
水口博也著 講談社 1990

この本をひらくと、クジラの姿を撮る事を通じて、人間とクジラの新しい“邂逅”をきっと感じることでしょう……。ほら、ライバルにしても、恋人にしても、意識しはじめた頃って、お



互いの存在が気になってしかたがないですよ！

今の人間とクジラの関係って、そんな気持ちにとってもよく似ていると思うんです。

写真一枚一枚をめくっていくと、ある時は脅威にさえ感じられる躍動の中に、茶目つけたつぷりの表情を見つけ、また、おもわず愛くるしい声を思い浮かべたりしてしまう……。そして、いつしか不思議な幻想の世界に心癒されていることを、きっとあなたも気づくはずですよ。

(N)

ちくま哲学の森 2 —いのちの書—
筑摩書房 1989

この本は、タイトルだけ見ると宗教の本のようですが、本当はいろいろな本の中から「いのち」に関係している箇所を抜き出してきている本なのです。具体的に言うと、ヘレン・ケラーの自伝の一部、読んでいておもわず「げ！」と言ってしまった。冷静な本人による失明した瞬間の自分の姿を書いたもの、原爆が落ちた後の広島の大惨劇、苦笑してしまう、モーパッサンの短篇小説などなど、なのです。なんととってもこの本は、1冊で20冊も読んだことになるところが「売り」なのです。

(K)

書遊録

面白
映画本は
これだ!!

「バトル・オブ・ブラジル」

J. マシューズ著 [778.253
Ma 72]

“芸術か？ ビジネスか？”

本書は〔未来世紀ブラジル〕という映画の上映時間の長さをめぐる、監督と映画会社の無制限一本勝負の記録です。映画の裏で繰り広げられる戦いが、映画そのものより面白かったりするのです。映画が好きで、暇があったら映画館に足が向いちゃう、なんてあなた、絶対、絶対、読むように。

「ルードヴィヒ」

L. ヴイスコンティ [778.237
V 82]

“美しくなければ映画ではない？！”

と思っているあなたへの、お勧め本です。写真と、シナリオでつづる、ヴィスコンティの世界に心ゆくまで浸ってみては、いかがかな？

♥おまけの、おまけの、お勧め本♥

タルコフスキー At ワーク 芳賀書店 [778.3
H 56]

映像のポエジア タルコフスキー著 キネマ旬報 [778.04
Ta 91]

アラウンド・ザ・ムービー 森卓也著 平凡社 [778.04
Mo 45]

etc. etc.

映画本もたくさん所蔵しています。見てから読む



も、読んでから見るも、ご自由に。映画好きはますます中毒に、そうでない人もそれなりに、一回で二度、映画を楽しむ法でした。

図書館展示会のお知らせ

平成2年6月1日～7月31日まで下記のテーマで展示中です。ぜひ、ご覧ください。

テーマ：「北海道の植物展(1)～森林高山の代表的な種類」く佐藤 謙先生コレクションより」(図書館展示さかくNo.9)

◎資料配布中：①札幌近郊の森林の垂直分布
②北海道の高山における生育地と植物

ポスター

北海道の植物展(1)



図書館展示さかくNo.9

森林と高山の代表的な種類を展示
佐藤 謙先生コレクション(生物学講義用)

→図書館1F自由閲覧室
期間：2.6.1～2.7.31

◎資料配布中：①札幌近郊の森林の垂直分布
②北海道の高山における生育地と植物

★森林植物の垂直分布

・ 森林に隣接林 / 針葉樹林 / ハイマツ広木林

▲高山植物と生育地

・ 高山地 / 高嶺砂礫地 / 雪割地 / 雪田

・ 火山麓原 / 超塩基性岩地 / 石灰岩地



新着図書 — 工学

図学概説 福永節夫編/科学技術計算のためのロータス「1-2-3」 W. J. オーヴィス著/物理学大百科 R. M. Besancon 編/近代日本の技術的条件 今津健治著/技術発表のすべて R. M. Woelfle 著/日本土木史研究発表会論文集 9 土木学会編/土木工学ハンドブック 1, 2 土木学会編/土木社会史年表 大木孝著/土木施工管理関係法規集 1, 2 全国建材研修センター編/人・社会・地球 半谷高久著/都市の役割 材野博司著/ミース・ファン・デル・ローエ D. スペース著/最新建築・土木用語中辞典/地中海建築の設計技法の研究 堀内清治著/不安な高層・安心な高層 湯川利和著/ロボットプログラミング 荒牧重登著/プログラム学習による基礎電子工学 松下電器工学院編著/ホットキャリア効果 武田英次著/ダイナミック・メモリー R. C. シャンク著/マイコンストーリー 日本電子工業振興協会編/ドキュメント作成方法論 Sandra Pakin and Associate, Inc 著/PC9801 機械翻訳プログラミング入門 C S K 総合研究所編/デジタルシステム 楠菊信著



施設探訪 — その2 — 札幌芸術の森

札幌市南区常盤 75 番地
(011) 592-5111

野外美術館

札幌芸術の森の中心となるのは野外美術館。約 4 ha の敷地の中に、現代日本を代表する 52 点の作品と、ノルウェーの彫刻家グスタフ・ビーゲラン(Gustav Vigeland 1869-1943)の作品 5 点が展示されています。階段を登り気になった彫刻の前で立ち止まり、自動販売機で缶コーヒーを買ってトイレタイムもいれての散策時間・約 30 分。天気さえよければもう最高！ 今年の 7 月下旬には、さらに敷地が約 2 倍に拡張される予定とか。



女・夏

佐藤 忠良

有島武郎旧邸

大正 2 年に建てられた邸宅をそのままの姿に移築復元。有島武郎の様々な資料を展示しています。

芸術の森センター

レストラン(おいしい♥ という人もいます。貴方も食べてみて下さい)・ミュージアムショップ等

工芸館

展示ホールが楽しい。様々なテーマで国内外のクラフト展が行われます。市内の作家の作品を販売しているクラフトショップもあります。

その他の施設

ガラス・陶工房、木工房、アートホール、アトリエ、ロッジ。

昭和 61 年(1986) 7 月に開館した札幌芸術の森は 40 ha の広がり、1984 年から 3 期 15 カ年(1999 年完成予定)という息の長い事業です。現在第 1 期が終了し第 2 期の計画が進行中。

交通機関

★地下鉄真駒内駅から中央バス(南 101 空沼線、南 102 滝野線)乗車 “芸術の森前” 下車 バス 12 分

★札幌市内中心部から車で支笏湖線約 30 分

開館時間 9 : 45 ~ 17 : 00

開園の日 年中開園

但し 11 月 4 日 ~ 4 月 28 日迄は、月が休園日

料金 野外美術館 大人 500 円

小・中学生 100 円

教養 — 新着図書

ちくま哲学の森 1, 6 鶴見俊輔編/哲学を学ぶ人のために 唯物論研究協会編/論理学 鯉坂真著
/ 図説日本の仏教 6 大田博太郎監修/聖書 日本聖書協会/南方熊楠書簡 中瀬喜陽編/ふるさと
日本列島 全 8 毎日新聞社編/湯川秀樹著作集 9 / 化学大辞典 大木道則編/世界大博物図鑑 2
荒俣宏著/完訳 ファーブル昆虫記 8 J. H. ファーブル著/日本海のおいたち 紘野義夫著/日
本の野生植物 草本 1 ~ 3 佐竹義輔編/いのちの終末をどう生きるか 日野原重明著/医療ってな
んだらう 塙正男著/驚異の小宇宙・人体 1 ~ 5 日本放送協会取材班著/日本に森林はいらないか
森林フォーラム実行委員会編/ラルース世界音楽人名辞典 遠山一行編/ラルース世界音楽事典
上, 下 遠山一行編/ラルース世界音楽作品事典 遠山一行編/スワヒリ・日本語辞典 和崎洋一編/
大歳時記 4 大岡信 [ほか] 編/TVピープル 村上春樹著/太宰治全集 3, 4 太宰治著

心して耕す書架に知が育つ

……万智流図書館ウォッチング……

NHKラジオの「伝えていく言葉」に「稲の肥料は人の足音」というのがあった。

足しげく田に向い、手を入れることが稲を育てるコツというわけだが、ふと図書館のフロントワークも又これと似ているのではと思われた。

本の乱れを直し、埃を拭きとり、どんな本が利用されているのかを知り、新しい本を取り入れていく努力が利用を伸ばしていくことに通じる。

耕すは「文化」を意味するが、「書架を耕すなら知もまた育つ」というべきだろう。

開館以来早くも3年、利用は着実に伸びている。

学生の貸出では本館でようやく1万冊を越え、工学部の伸びは目をみはるものがある。

そのことは「時計型指数グラフ」一下図一ではつきりと読みとることができる。

「閲覧配本数」はもう一つの指標だが、ここでも利用の伸びはめざましい。初年度は約4万冊だったのが、2年目6万冊強、去年は8万冊にせまっている。

最新の統計でも今年もまた着実な伸びが見られそうだ。こうした傾向を今はやりの倭万智流に表わすと

心して耕す書架に知が育つ

きょうの数楽あしたの語楽

私達は着実に右まわりに回転する針を逆にまわさないよう今日も又書架を耕しつづける。

ライブラリーウォッチング ①

学生貸出冊数×閲覧配本冊数
年次別推移

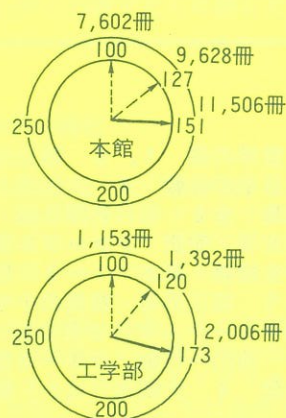
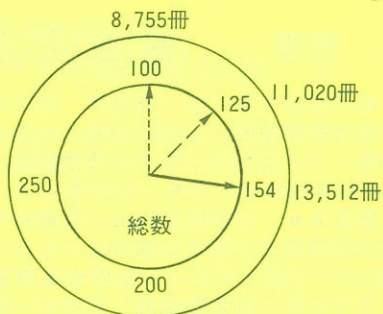
(本館)



ライブラリーウォッチング ②

学生貸出冊数
「時計型指数」
(円内は指数)

----- は1987年
- - - - - は1988年
————— は1989年



ツーカー 倶楽部

●解説 山根 对助 (教養部教授・日本古典文学)

俳句というと、老人の芸事と思われているようだ。いまどきの若者だけではない。かなり以前から……私の学生時代もそうだった。

だが、外国人はそう思わぬらしい。外国の知識人にとって、この形式の表現はまことに興味をそそるものがあるらしく、外国語によって作られる俳句は国際的に広がりつつある。

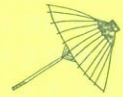
そのうちに、すぐれた「現代」俳句は、本国日本では見られず、ドイツとかセネガルとか、そんな国々でつくられるようになるかも知れない。

連句・半歌仙 (その二)

「この雨の」の巻

この雨のあがれ日当れ庭莓
身をふるはする軒下の猫
一人あれば故郷の空は青くして
冷蔵庫からラーメンもなし
風呂上りビールぶらさげ月を見て
すき焼鍋を食べたくなる日
曇る空思ふことさへ許されず
さはれ消えせぬその面影や
この想ひ鳥に託して君に飛べ
世のほこりども吹きあげる東風
大学に落ちてやつたと高笑ひ
遅桜咲き胸なでおろす
螢の火道照らしたは祖父のころ
青葉着こんだ炎天の山
夏真昼戦ひ止むと目は涙
秋の田面に煙たなびく
秋風や色とりどりに葉は踊る
お色直しか秋時雨降る

星野立子
山崎正人
山本優美
今井一登
西原秀欣
一登
正人
宮崎貴弘
優美
一登
優美
秀欣
秀欣
正人
達哉
正人
貴弘
正人



「若者たちの神々 筑紫哲也对論集」

筑紫哲也編 朝日出版社

法学部I部2年 石原太郎

この本の紹介と言う形で書かせて貰います。題名を見て判るとおり、現在テレビでもお馴染みの筑紫哲也氏(当時朝日ジャーナル編集長)と若者たちの神々との対論集であります。ここにある「神々」と言う言葉の意味は少々大袈裟ではあるけれども、現在若者たちに多大に支持されている各界の人々のことであります。例えば、1巻に取り上げられている人々の名を挙げて見ますと、浅田彰、藤原新也、ビートたけし、島田雅彦と言ったそれぞれ本当に興味深い人物であります。

さて、この対論の中心は、「神々」が若者になぜ支持されているか、「神々」の専門分野における現状、現代の社会について、と言ったものです。それぞれが時代の最先端を走っていると言われている人達なので、時代の捕え方は非常に適確であると思われまます。また対論の相手となる筑紫氏もい

わゆるマスコミ的な捕え方で彼等を見ているのであまり突っ込んだ話は多くはないけれど、真にその「神々」に接近して考えを引き出そうとしている態度には好感が持てます。

「神々」の話を読んで、いかに自分たちがあらゆる事柄を一面的に見ていたか、先を見る目がなかったかと言うことも判ります。

またこの本は対論集と言う形式を取っていることもあり、非常に読み易いと思われまますが中身は非常に濃いものになっています。またこの本は1984年に出版されたものですが、いま読んでも古くさい感じは全くせず、むしろ新鮮なように思われまます。

この図書館にも所蔵されておりますので、暇な時にでも見れば良いかも知れません。

(いしはら たろう)

世界の遊戯・遊戯の世界 ②

賭“博”のルーツ

(カットは博のゲーム盤)

大谷通順

スポーツの種目によっては、試合開始前に審判がまず硬貨を投げ上げて先攻権や陣地をきめる。二者択一はわれわれ人類のもっとも原初的な判断方法であり、審判による硬貨のトス・アップのように、人為をはなれた力にその判断をゆだねるのが、占いの本質である。アジアの諸民族と北米インディアンに伝えられるこの種の占いは、おもに2種類ある。一つは上記の硬貨のように2面をもつ物体を投げていずれの面が出現するかをみるもの、もう一つは無作為に選んだ同形等質の物体を数えて、それが奇数か偶数かをみるものである。

『易』の占筮法は、無作為に筮竹を操作し、“陰”“陽”いずれの結果がでるかを見て、未来を予言するわざである。陰・陽の判定は、合計50本(実際に用いるのは48本)の筮竹を特殊な手続きにしたがって動かし、数え、その本数によって行なう。こうして同じ操作を6回繰り返したのち、最終的にえられた陰・陽の組み合わせ(「卦」)から、シンボリックな意味が読みとられる。この手続きは、森羅万象がすべて陰・陽二つのエレメントの組み合わせによって生成変化するという、独特な世界観にもとづくものであり、神秘主義的な数理の運用によって粉飾されているが、所詮は先に述べた奇・偶による二者択一の一種にすぎない。

ところで、秦代から漢代にかけて(前3世紀～後3世紀)中国では“博”とよばれるボードゲームが盛行した。わが国でもギャンブルを“賭博”といい、それをなりわいとする者を“博徒”というが、いずれもこの“博”から派生した語である。じつ

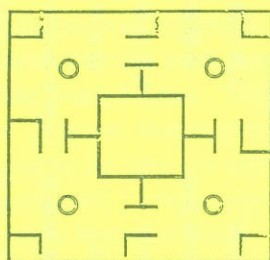
はこのゲームは、上記の占いのうち、第1の形態と『易』の要素をあわせもったものなのである。

博の対戦者は、“箸”とよばれる細長い6本の半円柱形のさいころをふり、でた結果によって各自の駒を、特殊な文様の描かれたゲーム盤上で移動させる。勝敗は敵の駒をとらえることできまらしいが、詳しくはわからない。このゲーム盤には、方形の“地”と円形の“天”をはじめ、宇宙の各構成要素が描きこまれ、さながら古代中国人の世界観の縮図となっている。一方、箸はその形状ゆえに、それを投じて出現するのはおもて・うらの

のいずれかの面しかありえない。しかも箸の数は合計6個である。つまり、それは無作為の二者択一を6回重ねるのに等しく、まさに『易』の占筮法と原理的に一致するのである。博はこのように象徴性の強い遊戯であり、おそらくはその起源となった占いの特徴を色濃く残しているものと考えられる。

博の例にかぎらず、どうも占いは天意をたずねる聖なる目的を喪失すると、遊戯に“墮落”するらしい。ここでは詳述できないが、冒頭で述べた2種類の方法からは、ほかにもさまざまな遊戯が生まれている。そのうち、漢代から南北朝(前1世紀～後6世紀)にかけて流行した“樗蒲”という遊戯には、『易』の占筮法の影響がさらに顕著にみられる。この問題については、拙稿「五木の形状と樗蒲の遊戯法」(本学の『学園論集』第67号に発表予定)で論じているので、ご参照いただければ幸いである。

(おおたに みちより 教養部講師)



編集後記

もうすぐ夏休み、予定は立ちましたか?。○海・山・それとも豪華に海外旅行etc.. アルバイトに励むのもいいですね。○4年生にとっては、忙しく、そして最後の夏休み体調を崩さず頑張ってください。○図書館は休暇中も開館しています。○9月には定期試験が待ち構えていますヨー。



北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.12 No.2.(通巻114号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841-1161
本館内線 270~275・279
工学部内線 813・814